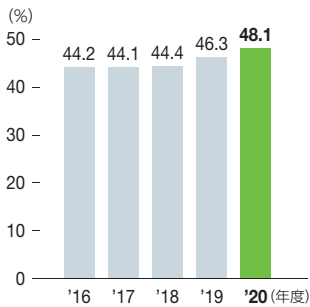


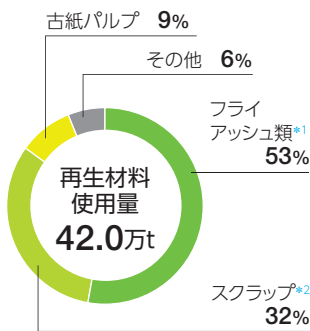
環境負荷を低減する資源の有効活用

地球環境に配慮した再生材料を優先的に使用し、限られた資源の有効活用に取り組んでいます。

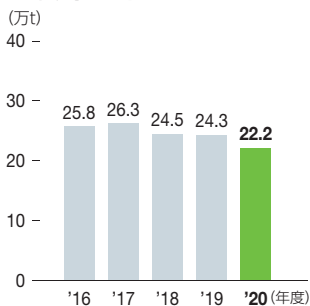
■ グリーン調達比率 (再生材料比率)の推移



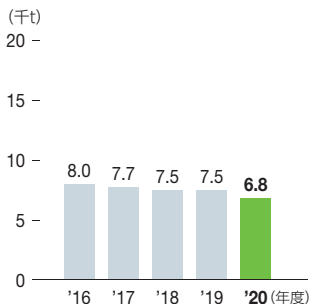
■ グリーン調達材料の内訳 (2020年度)



■ フライアッシュ類 使用量の推移



■ 端材回収量の推移



グリーン調達の推進

ケイミュールでは、再生材料を優先的に選択してグリーン調達比率を高めることを推進し、環境負荷低減に取り組んでいます。

2020年度の再生材料使用比率は48.1%で2年連続最高比率を更新しました。この要因はフライアッシュ類*1やスクラップ*2、古紙パルプなどの再生材料を活用する技術開発や効率的な調達の推進によるものです。

一方、生産量が前年度比約12.8%減少した影響で、再生材料使用量は前年度46.4万トンから42.0万トンとなりましたが、再生材

料使用比率が前年度比約3.8%増加したことにより、使用量は約9.5%の減少に止まりました。

今後も原材料に再生材料を活用する技術開発や調達の推進によって再生材料を効率的に活用し、環境負荷を与えないグリーン調達の比率向上に取り組んでまいります。

*1 フライアッシュ類
火力発電所などで石炭を燃焼させて発生した灰を電気集塵装置で回収したもの

*2 スクラップ
新築現場で発生した端材や製造工程で製品とならなかったものなどを再生材料としたもの

端材回収リサイクルシステム

新築現場などで発生する外壁材や屋根材の端材(切断した後の切れ端)のほとんどは産業廃棄物として廃棄処分されていました。

ケイミュールでは、早くから新築現場で発生した外壁材、屋根材などの自社端材を積極的に回収し、工場で再原料化するリサイクルシステムを確立し、取り組んできました。

2020年の新規住宅着工数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、前年比約9.9%減の81.5万戸で、販売の主力となる持家住宅は9.6%減、戸建て分譲住宅では11.4%減となりました。2020年の端材回収量は、住宅

販売減少の影響で、6,800トンとなり前年比約9%減でした(前年は7,500トン)。

一方、端材の回収契約を結んでいる元請け業者様の数は前年より約8%増加しており、契約社数は2012年度から8年連続して増加しています。これは回収された新築端材を新たな原料として再生する取り組みが評価されたものと考えます。

持続可能な循環型社会の形成には資源の再利用とその活用が不可欠です。当社は端材の回収を通じてその実現を目指します。

■ 端材回収リサイクルシステムフロー図

